

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成30年11月8日
【四半期会計期間】	第50期第2四半期（自平成30年7月1日至平成30年9月30日）
【会社名】	株式会社医学生物学研究所
【英訳名】	MEDICAL&BIOLOGICAL LABORATORIES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 公政
【本店の所在の場所】	名古屋市中区栄四丁目5番3号
【電話番号】	(052)238-1901（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理統括本部長 中井 邦彦
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区栄四丁目5番3号
【電話番号】	(052)238-1901（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理統括本部長 中井 邦彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第2四半期 連結累計期間	第50期 第2四半期 連結累計期間	第49期
会計期間	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成30年4月1日 至平成30年9月30日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日
売上高 (千円)	3,495,850	3,726,730	7,072,108
経常利益 (千円)	8,704	203,665	11,867
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (千円)	1,197	206,150	59,438
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,642	165,919	40,155
純資産額 (千円)	6,963,884	7,089,390	6,926,380
総資産額 (千円)	10,104,987	10,090,095	9,922,918
1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失 (円)	0.23	39.87	11.49
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.9	70.3	69.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	12,073	654,841	275,904
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	370,179	6,826	651,753
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,852	39,094	369,604
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,148,199	2,420,552	1,813,965

回次	第49期 第2四半期 連結会計期間	第50期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日	自平成30年7月1日 至平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 (円)	0.27	8.40

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 4 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失( )」及び「1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( )」を算定しております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(試薬事業)

第1四半期連結会計期間において、株式会社抗体研究所は清算終了いたしました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（自平成30年4月1日至平成30年9月30日）のわが国経済は、景気が緩やかに拡大しているものの、人手不足による景気の腰折れリスクや相次いだ自然災害の影響、米国の保護主義政策による世界経済の減速懸念などから、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

こうした中、当第2四半期連結累計期間の売上高37億26百万円（前年同四半期比6.6%増）、営業利益1億27百万円（前年同四半期比140.4%増）、経常利益2億3百万円（前年同四半期比23.4倍）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億6百万円（前年同四半期比172.2倍）となりました。

売上高の伸長は、中国市場において診断薬メーカー向け販売が好調である北京博尔邁生物技术有限公司と、本年1月より診断薬原料の商業生産が順調に稼働している恩碧棠（杭州）生物科技有限公司の中国子会社による効果です。また国内市場においては当社事業の柱である自己免疫疾患検査試薬や、本年4月に新製品を発売したがん関連検査試薬が堅調に推移しています。売上高の伸長に加え、これまでのグループ企業再編をはじめとする各種固定費低減効果により、当第2四半期連結累計期間における利益は順調に推移しております。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

#### (ア) 試薬事業

臨床検査薬事業は、自己免疫疾患検査試薬分野が当社収益の中核となっております。他社との競合が激化するなか、品質の高さや手厚い学術支援などを評価いただき、国内市場においては引き続き同分野のトップメーカーとして幅広く認知され、当社試薬を採用していただいているものと分析しております。自己免疫疾患検査試薬は自動測定機器に対応したステイシアMEBLuxテストシリーズを中心に売上高は堅調に推移しています。またがん関連検査試薬分野では4月に「MEBGEN™ RASKET-B」を発売しており、今後の臨床検査薬事業をけん引する試薬への成長が期待できます。また前述の通り中国子会社の売上高も順調に推移しており、当臨床検査薬事業の売上高は前年同四半期を上回りました。

基礎研究用試薬事業は、中国市場においては合成核酸試薬の売上が減少したものの、デジタルマーケティングなどにより積極的な拡販活動に取り組んでおります。一方国内市場においては依然としてアカデミアの試薬購買力が沈滞化していることから、当事業の売上高は前年同四半期を大きく下回りました。

これらの結果、試薬事業全体の当第2四半期連結累計期間の売上高は36億96百万円（前年同四半期比6.7%増）となり、セグメント利益は1億21百万円（前年同四半期比157.6%増）となりました。

#### (イ) 投資事業

投資事業においては、ファンドの管理収入により、当第2四半期連結累計期間の売上高は30百万円（前年同四半期と同額）、セグメント利益は5百万円（前年同四半期比1.3%増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (ア) 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は100億90百万円となり、前連結会計年度末に比較して1億67百万円増加しました。

・流動資産：当第2四半期連結会計期間末で60億17百万円となり、前連結会計年度末より4億61百万円増加しました。

これは主に、受取手形及び売掛金が1億19百万円、商品及び製品が1億14百万円減少した一方で、現金及び預金が6億6百万円増加したためです。

・固定資産：当第2四半期連結会計期間末で40億72百万円となり、前連結会計年度末より2億94百万円減少しました。

1) 有形固定資産は24億47百万円となり、前連結会計年度末より2億70百万円減少しました。

これは主に、建設仮勘定が2億28百万円減少したためです。

2) 無形固定資産は2億45百万円となり、前連結会計年度末より1億22百万円増加しました。

これは主に、その他に含まれるソフトウェアが1億22百万円増加したためです。

3) 投資その他の資産は13億79百万円となり、前連結会計年度末より1億47百万円減少しました。

これは主に、その他に含まれる出資金が1億31百万円減少したためです。

### (イ) 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の額は30億円となり、前連結会計年度末に比較して4百万円増加しました。

・流動負債：当第2四半期連結会計期間末で21億円となり、前連結会計年度末より31百万円増加しました。

・固定負債：当第2四半期連結会計期間末で9億円となり、前連結会計年度末より27百万円減少しました。

### (ウ) 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の額は70億89百万円となり、前連結会計年度末に比較して1億63百万円増加しました。

自己資本比率は70.3%（前連結会計年度末は69.8%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、24億20百万円(前連結会計年度末は18億13百万円)となり、前連結会計年度末と比較し6億6百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、6億54百万円の資金の増加(前年同四半期は12百万円の資金の増加)となりました。主な資金の増加要因は、税金等調整前四半期純利益が2億35百万円、減価償却費及びその他の償却費が2億12百万円、売上債権の減少額が1億73百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、6百万円の資金の減少(前年同四半期は3億70百万円の資金の減少)となりました。主な資金の減少要因は、有形固定資産の取得による支出が1億29百万円であります。また、主な資金の増加要因は、投資その他の資産の減少額が1億39百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、39百万円の資金の減少(前年同四半期は3百万円の資金の増加)となりました。主な資金の減少要因は、長期借入金の返済による支出が3億29百万円であります。また、主な資金の増加要因は、長期借入れによる収入が3億円であります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、5億47百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,211,800	5,211,800	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	5,211,800	5,211,800		

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成30年7月1日～ 平成30年9月30日		5,211,800		4,482,936		4,198,269

(5)【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
J S R 株式会社	東京都港区東新橋 1 丁目 9 - 2	2,627	50.81
数 納 幸 子	名古屋市東区	233	4.51
MSIP CLIENT SECURITIES 常任代理人 モルガン・スタンレーMUFG証券 株式会社	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. 常任代理人 東京都千代田区大手町 1 丁目 9 - 7 大手 町フィナンシャルシティ サウスタワー	126	2.45
西 田 克 彦	愛知県尾張旭市	114	2.20
株式会社SBI証券	東京都港区六本木 1 丁目 6 番 1 号	32	0.62
M B L 社員持株会	名古屋市中区栄 4 丁目 5 - 3 K D X 名古屋栄ビル10階	26	0.50
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 - 1 1	26	0.50
数 納 博	愛知県春日井市	24	0.46
浅 野 鏡太郎	名古屋市昭和区	22	0.43
中 町 匡 志	大阪府岸和田市	21	0.41
計		3,254	62.93

(注) 上記のほか、自己株式が40千株あります。

( 6 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 40,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,164,500	51,645	
単元未満株式	普通株式 6,400		
発行済株式総数	5,211,800		
総株主の議決権		51,645	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社医学生物学研究所	名古屋市中区栄四丁目5番3号	40,900		40,900	0.78
計		40,900		40,900	0.78

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、名古屋監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,823,978	2,430,566
受取手形及び売掛金	1,728,070	1,608,195
商品及び製品	922,915	807,933
仕掛品	562,600	633,898
原材料及び貯蔵品	441,792	470,509
その他	94,433	69,848
貸倒引当金	18,416	3,752
流動資産合計	5,555,373	6,017,199
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	1,705,399	1,655,472
機械装置及び運搬具(純額)	37,133	32,258
土地	96,086	92,829
リース資産(純額)	55,151	50,950
建設仮勘定	451,867	223,108
その他(純額)	371,538	392,433
有形固定資産合計	2,717,176	2,447,053
<b>無形固定資産</b>		
のれん	518	333
その他	122,713	245,526
無形固定資産合計	123,231	245,859
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	116,595	46,455
長期貸付金	96,345	63,289
関係会社長期貸付金	951,490	1,008,640
長期前払費用	151,733	155,825
その他	553,492	386,130
貸倒引当金	342,521	280,357
投資その他の資産合計	1,527,136	1,379,982
<b>固定資産合計</b>	4,367,545	4,072,895
<b>資産合計</b>	9,922,918	10,090,095

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	278,794	375,092
短期借入金	994,996	978,328
未払法人税等	52,037	60,474
その他	742,862	686,181
流動負債合計	2,068,689	2,100,075
固定負債		
長期借入金	856,531	843,201
繰延税金負債	5,022	-
その他	66,294	57,428
固定負債合計	927,848	900,629
負債合計	2,996,538	3,000,705
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,482,936	4,482,936
資本剰余金	4,198,605	4,198,605
利益剰余金	1,757,711	1,554,397
自己株式	43,788	43,861
株主資本合計	6,880,041	7,083,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,927	-
為替換算調整勘定	24,412	6,108
その他の包括利益累計額合計	46,339	6,108
非支配株主持分	0	0
純資産合計	6,926,380	7,089,390
負債純資産合計	9,922,918	10,090,095

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	3,495,850	3,726,730
売上原価	1,466,790	1,682,677
売上総利益	2,029,059	2,044,052
販売費及び一般管理費	1,976,087	1,916,728
営業利益	52,972	127,324
営業外収益		
受取利息	9,275	8,504
為替差益	3,937	71,825
その他	7,975	18,698
営業外収益合計	21,188	99,029
営業外費用		
支払利息	8,517	6,283
持分法による投資損失	56,432	14,770
その他	505	1,634
営業外費用合計	65,456	22,688
経常利益	8,704	203,665
特別利益		
固定資産売却益	-	40
国庫補助金	9,351	-
投資有価証券売却益	999	24,096
貸倒引当金戻入額	-	9,884
関係会社清算益	-	2,836
特別利益合計	10,351	36,858
特別損失		
固定資産除却損	3,869	574
投資有価証券評価損	0	-
貸倒引当金繰入額	-	4,300
特別損失合計	3,869	4,874
税金等調整前四半期純利益	15,185	235,649
法人税、住民税及び事業税	13,988	29,499
法人税等合計	13,988	29,499
四半期純利益	1,197	206,150
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	-	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,197	206,150

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	1,197	206,150
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	801	21,927
為替換算調整勘定	4,882	17,878
持分法適用会社に対する持分相当額	240	425
その他の包括利益合計	3,840	40,231
四半期包括利益	2,642	165,919
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,642	165,919
非支配株主に係る四半期包括利益	-	0

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	15,185	235,649
減価償却費及びその他の償却費 のれん償却額	201,027	212,848
投資事業組合運用損益(は益)	207	166
投資事業組合運用損益(は益)	499	-
固定資産除売却損益(は益)	3,869	534
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,243	6,173
受取利息及び受取配当金	9,895	9,143
支払利息	8,517	6,283
為替差損益(は益)	14,632	65,651
持分法による投資損益(は益)	56,432	14,770
投資有価証券売却損益(は益)	999	24,096
売上債権の増減額(は増加)	2,619	173,263
たな卸資産の増減額(は増加)	52,239	9,670
仕入債務の増減額(は減少)	114,531	85,857
未払金の増減額(は減少)	66,122	63,147
その他	122,934	92,746
小計	41,492	663,579
利息及び配当金の受取額	9,958	9,155
利息の支払額	8,319	6,327
法人税等の支払額	31,057	11,565
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,073	654,841
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	10,012	10,013
定期預金の払戻による収入	10,011	10,012
有形固定資産の取得による支出	376,790	129,054
有形固定資産の売却による収入	-	43
無形固定資産の取得による支出	13,843	68,676
投資有価証券の売却による収入	1,000	49,347
貸付金の回収による収入	1,897	2,038
投資その他の資産の増減額(は増加)	17,557	139,474
投資活動によるキャッシュ・フロー	370,179	6,826
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	1,848	-
長期借入れによる収入	400,000	300,000
長期借入金の返済による支出	380,398	329,998
自己株式の取得による支出	-	72
配当金の支払額	173	-
リース債務の返済による支出	13,728	9,024
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,852	39,094
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,473	1,001
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	347,780	609,922
現金及び現金同等物の期首残高	2,495,980	1,813,965
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	3,334
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,148,199	2,420,552

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

- ・清算による連結除外 1社

第1四半期連結会計期間において株式会社抗体研究所は清算終了したため、連結の範囲から除外しておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、債務保証を行っております。

(1)金融機関からの借入

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
MBL International Corporation	980千円	-

(2)リース債務

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
MBL International Corporation	33,567千円	25,077千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
貸倒引当金繰入額	2,243千円	582千円
給与手当	587,662	609,139
研究開発費	636,384	547,790

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金勘定	2,158,212千円	2,430,566千円
預入期間3ヶ月超の定期預金	10,012	10,013
現金及び現金同等物	2,148,199	2,420,552

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	試薬事業	投資事業			
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	3,465,850	30,000	3,495,850	-	3,495,850
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,465,850	30,000	3,495,850	-	3,495,850
セグメント利益	47,135	5,836	52,972	-	52,972

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	試薬事業	投資事業			
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	3,696,730	30,000	3,726,730	-	3,726,730
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,696,730	30,000	3,726,730	-	3,726,730
セグメント利益	121,411	5,912	127,324	-	127,324

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	0円23銭	39円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	1,197	206,150
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益(千円)	1,197	206,150
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,170	5,170

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月7日

株式会社医学生物学研究所

取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 中田 恵美 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 大西 正己 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社医学生物学研究所の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社医学生物学研究所及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。